

日刊 動労千葉

86. 4. 17

No. 2218

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

「民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

増根・杉浦の手先 革マルの粉碎・掃き出し 労働者・人民の敵

国鉄労働者勝利の唯一の道



四月十三日、「真国労」（真国鉄労働組合）なるものが東京において結成大会を開催した。この「真国労」なるものの正体は、国労内革マル分子が、動労「本部」革マルと結託し、デッチあげてきたものであることを明らかにしてきた。中曽根・杉浦の手先と化した国鉄内革マルが本格的に国労を分断・解体し、国鉄労働運動破壊に一気にかかってきたのだ。動労「本部」革マルを隠れみのにした「真国労」なるものを動労「本部」革マルもろとも追放・一掃してはならない。

主謀者は札つきの革マルで
「事務所」は鉄労東京地本内に：

——「真国労」なるものの正体——

真国労なるものは、国鉄労働運動を破壊するためにのみデッチあげられた御用組合である。そもそも組合事務所が鉄労東京地本事務所内にあるのである。それだけではない。「真国労結成宣言」を見よ。「宣言」は、「国鉄の危機が叫ばれ、国鉄に働く者の雇用危機が深まっている。良識ある者は、自分を守ること。それには正常な労使関係をつくることだ」といつている。これは、どう見ても当局と見まごうばかりの文面ではないか。さらに「宣言」は、「派遣や直営売店にいった

者が裏切り者といわれた。これが労働組合なのか」そして「わたしたちは、真実の労働組合」を希求する」などいつている。

職場で苦闘する仲間を足げにし、自分だけは生きのころうという者が裏切り者といわれるのは当然ではないか。

ましてや「三本柱」「労使共同宣言」を積極的に受け入れ、当局になりかわって組合員を職場から追い出し、また、その出向先において、そこで働いている労働者を玉つきで首にし、三月二〇日から開始した広域配転にも全面協力し、北海道・九州からムリヤリ組合員を叩き出し、ここでも自らがだけが生きのころうと他の労働者を蹴りおとそうという動労「本部」革マルと全く同じことをやろうとしている輩が「真実の労働組合＝真国労」などとは許せない。

もはや、「中間の道」は無さ！

——革マル・マル生分子の如き裏切り者の道か、動労千葉と共に進む実力決起＝勝利の道か——

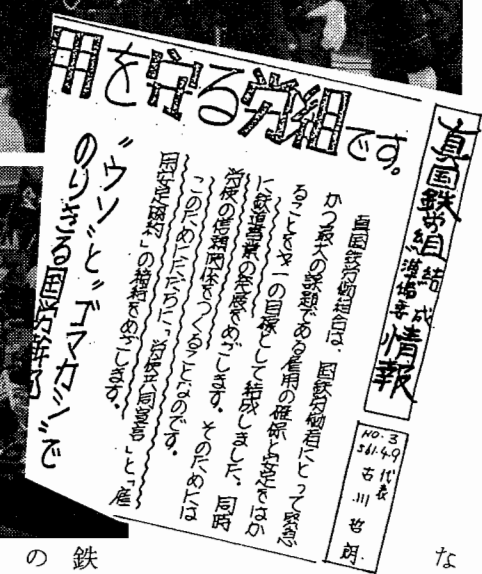
このデッチあげ「結成大会」に動労「本部」、鉄労が同席し、会場のガードに動労革マルと鉄労の支援部隊が仲良く肩をならべてあたったという動労革マル・松崎は「鉄労の指導をお願いする」「当局のイヌとなって国労を退治する」とまでいきり、国労解体＝国鉄労働運動解体策動を行ってきた。われわれはこの間、国鉄労働運動から革マル分子を追放・一掃することを訴え闘いぬいてきた。しかし国労中央は、動労革マルとの対決を避け問題をあいまいにしてきた。その結果、革マルにいいように揺さぶられ、組織の分断を許してきたと言える。

いま国鉄労働者が選択する道は、動労革マルのように当局の手先となって自己保身を図るのか。苦しくても動労千葉のように闘いに起つか。いずれかである。

国鉄労働者に中間の道はない。当局・動労革マルと一体となった真国労を動労革マルもろとも国鉄労働運動から叩き出せ。



▲「真国労」防衛にかけつけてきた右翼3組合の「防衛隊」(4/13) 警察官に守られて「結成大会」
▼会場入口にピリを張る鉄労の行動隊。



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！